

建設未来京都フォーラム 2016 記念事業

インタビュー集

“女性たちが語る建設業の未来“

—私にもできるはず—

②

建設未来京都フォーラム事務局

建設未来京都フォーラム 2016 記念事業

インタビュー集『女性たちが語る建設業の未来 ―わたしにもできるはず―』 NO.14

“建設業の魅力を、業界がアピールできていないのでは…”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 13年

・建設業に関わったきっかけ：

高校受験時に父に建築を勧められ、普通科に進学し、大学は土木か建築へ進もうと決めていた。大学受験時に土木の方が面白そうと思い、土木工学科へ進学。13年前には大手企業は、女子はシャットアウトの時代。私自身も実家から通える会社に勤めたいと思っていたので、大学に来ている求人票の中から会社を探し出し、たまたま今の会社に入社、建設業に関わるようになった。

・職種（できるだけ具体的に）：

積算業務、現場監督、ISO・BCPのマニュアル・計画書等作成

➤ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

積算業務で言えば、入札金額だけでなく、会社の評価点も加味しての落札決定となりますが、やっぱり落札できた時は喜びを感じますし、達成感も感じます。落札できるまでには数十本の積算をしているので、ホッとします。

現場監督業務では、現場が完成した時、発注者だけでなく地元の方々からも感謝されると、「生活基盤を整備していく建設業」に従事していることに誇りを感じます。暑い中、寒い中、休日出勤して・・・と言った苦労も吹っ飛んでしまいます。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

年度予算の関係上、工事の公告時期が一時に集中してしまうため、抱える仕事量が膨大になる時期が数ヶ月続くことがあります。この問題を発注者側に言ったところで改善される問題ではないので、限られた時間の中で、少しでも多くの仕事が処理していけるようにしていくしかないと思っています。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

まずは家族、そして会社の上司や先輩の協力と理解だと思います。そして、自分自身の建設業に対する思いの強さだと思います。私の場合、入社当時、県内の建設会社には、女性技術者数名がいると聞いていましたが、結婚や出産を機に「退社された」、「事務職に配置転換された」等と噂を聞いていましたので、結婚や出産で退社や事務員にはなりたくないと思っていました。男性に「結局女は・・・」と、思わせたくないと言う負けん気根性があったんだと思います。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

今のいわゆる若者といわれる年代の方は決まった休みが必要だと聞いたことがあります。建設業の場合、作業員が日給で働いている方が多いため、週休2日にできないのが現状だと思います。労務費をも

っとあげることを前提とし、週休2日の導入が必要になってくるのではないかと思います。

もう1点、結局は建設業に魅力がないと言うよりも業界が魅力をアピールできていないのだと思います。「汚い、危険、きつい」のイメージを打破できるようにしていかなければならないと思います。

※ご協力まことにありがとうございました。

“一人で業務を進めるには限界がある。社内外の協力者が必要”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 16年

・建設業に関わったきっかけ：

大学時の授業で興味を持ったことがきっかけとなります。

・職種（できるだけ具体的に）：

コンクリート関係の調査、診断、補修計画

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

構造物のインフラ整備（維持管理）に携わり、社会貢献の一部に関われていること。顧客から、お願いしてよかったといわれること。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

苦労していること

・一人で業務を進めるには限界があり、社内の協力や外部協力業者の人材確保と教育

・経験知を元に形式知とするためのツール作成

工夫していること

・自分が経験したこと、知っていることを他の人がやっている業務にも活かさないか常にアンテナを張り、活用できる場合はそれを伝え実践してもらうこと

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

この仕事が好きだからだと思います。また、長く仕事を続けていくためには、適度な息抜きが必要だと思います。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

仕事は仕事、プライベートはプライベートとどちらも楽しむことだと思います。

また、楽な仕事は実はなくて、いいことばかりではなく、若いうちの苦労や失敗が、将来のために役立つと信じて仕事をするのではないかと思います。

※ご協力まことにありがとうございました。

建設未来京都フォーラム 2016 記念事業

インタビュー集『女性たちが語る建設業の未来 ―わたしにもできるはず―』 NO.16

“工事報告書や写真帳を完成したときは喜びと達成感でいっぱい”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 0.5年

・建設業に関わったきっかけ：

就職活動をしていた時に、ハローワークの方に紹介してもらったことがきっかけです。

・職種（できるだけ具体的に）：

事務員

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

今年の4月に新入社員として働き始めたので、建設業にかかわった年数が短く、喜びややりがいを感じた出来事は少ないですが、工事の報告書や写真帳は建設業でしか経験できないことなので、この書類を完成させたときは喜びと達成感でいっぱいになりました。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

新入社員で入社をしたので建設業の知識はもちろん社会のこともまだしっかり分かっていないうえ、建設業でしか使われない言葉などがあり、言葉を覚えることがとても大変です。まだまだ勉強中です。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

まだ、入社して間もないのであまりわかりませんが、長く続けていくためには、やはり知識や様々な資格があるとよいのかと思います。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

技術を身に着ける、ものづくりの楽しさを知る、ものを作るということの興味を持つ、豊富な知識を持つことが大切なのではないかと思います。

※ご協力まことにありがとうございました。

“建設業で前向きに挑戦する勇気と広い視野を持つことができた”

➤ プロフィール

・性別： 男性

・建設業に関わった年数： 25年

・建設業に関わったきっかけ：

自然環境系の現場の仕事がしたかった

・職種（できるだけ具体的に）：

建設コンサルタントで、自然環境の調査、計画、設計

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

外部の研究所に出向させてもらい、前向きに挑戦する勇気と広い視野を持つことができた。発注者や地域の市民団体と相当にやりとりしたが、川の自然環境を回復させるための大規模な整備、その後の科学的なモニタリングを、提案通りにやらせて頂けるときは、上手くいくかドキドキするけど、本当にうれしい。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）
仕事量が減ると若手を増やすことが難しい。肩書に頼る 50 歳以上の活用の仕方。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？
探究心と達成感。会社が自由に挑戦させてくれたこと。家族の理解。身体を壊さないこと。

➤ 質問④ あと 5 年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？
自分の仕事に魅力や達成感を感じられていること。無茶な労働をしない。

※ご協力まことにありがとうございました。

“若者を確保するにはインターンシップ等のアクションが必要”

➤ プロフィール

・性別：女性

・建設業に関わった年数：半年

・建設業に関わったきっかけ：

建設業界は、「危険」「きつい」「汚い」の3Kといわれていますが、それに屈することなく働いている人のおかげで私たちは、何不自由ない生活を営むことができます。「人々の生活を守る」というのが建設業界の一番の魅力であると感じています。また、建物や道路の建設といった、地域の役に立てることが、一番のやりがいにつながると感じ、建設業に携わろうと思いました。

・職種（できるだけ具体的に）：

事務職 管理部総務課（給与関係、建退共関係、住民税関係、個人車両車票関係、求人関係、電話対応、郵便物処理、受付業務 他）

➤ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

建設業は日々の生活や社会の整備などに、なくてはならない仕事だと感じております。もっと小さい範囲で見れば、お客様に喜んでいただける、やりがいのある仕事だと思っています。

私は事務職なので、実際に建物を建てたり、現場関係の方々と直接多く接したりする機会はほとんどないですが、これから家を建てられるお客様が実際に会社に出向き、ここの壁の色はどうか、床はどんなデザインにしようかなどと相談をしている風景を見ると、とても喜びを感じます。なぜなら人々にとって家というのは、一生に一度の大きな買い物であり、また売る人と買う人との信頼関係がなければ頼まれない仕事であると思うからです。そしてお客様に「ありがとう」といっていただける瞬間が最もやりがいを感じます。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

私自身、まだ入社して半年で、正直なところほとんどのことに苦労しています。建設業の仕組みや自分の見えない部分ではどういったことが行われているのか、まだいまいち把握できておりません。初めは電話対応や受付業務といった事務的な面で苦労しましたが、仕事が増え建設業関係の仕事も任されるようになると、これはなんで？ どういうことだろう？と思うことが多くなり、自分はまだ建設業について全然理解していないなと実感しました。それに対しては、すぐに先輩に聞くか、まずは自分で調べようということを心がけています。また、どの現場を、誰が担当しているかというのはすぐにわかるようにしています。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

どうしても現場に出ている人と、社内にいる我々とは環境がまるで違うと思いがちですが、仕事をしている以上は室内にいる我々管理部も立派な現場という環境に置かれていると思っております。受付

でお客様と関わればそこは立派な現場です。電話に出ればそこは立派な現場です。必ずしも外に出て工事をしている人だけを現場に出ているとは言わないと思います。

皆が同じように、お客様の幸せのために何かをしようとする環境を、従業員全員が共有することで、今よりもっと良い結果が生まれ、この仕事が好きと感じるのではないかと思います。仕事が好きと思えば、自然とお客様にも幸せを届けられると認識しております。まずは、我々従業員がこの仕事を幸せと感じることが仕事を長く続けていくコツであるかと思います。

➤ **質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？**

一番は入社前と後でのギャップを小さくすることだと思います。与えられた仕事と、自分の希望とのギャップが、若者の離職の原因になることは少なくありません。このような事態を未然に防ぐには、まずは採用面接時の対応が大切であると思います。一方通行ではなく、お互いの考えをしっかりと伝え合い、入職後にギャップを感じさせることがないようにしなければなりません。

一つの手段として、インターンシップが有効です。インターンシップで学生を受け入れることで、学生は仕事の現実を知ることができます。また、企業側にとっても、学生の資質と性格を知る機会を得られます。インターンシップで学生を受け入れることは、企業にとっては少なからず現場での仕事に影響が出てくるかもしれませんが、何らかのアクションを起こさなければ、若者を確保することはできないのではないかと感じております。

※ご協力まことにありがとうございました。

“社員一人ひとりが自ら考え行動することで働きやすい職場に”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 2年

・建設業に関わったきっかけ：

国は村・町・市・県・都道府、ひとつひとつから成り立っています。地域が活性化するためにはどのようなまちづくりをすればいいのか。わが社は地域密着型の建設会社なので、地元企業の『力』に魅力を感じました。

・職種（できるだけ具体的に）：

事務（接客、電話対応 他）

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

地域の問題解決業として、地域をどのように活性化していくか、地域の安心安全の担い手であるという、役割や使命感が社会的に貢献しているという気持ちになります。そこに働きがいが生れます。

➤ 質問② 現在、一番苦勞や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

現在会社では、社員が自主性を持って働ける、活躍できる環境（組織）づくりを目指しています。そのためにはどのような問題が発生していて、どのように解決していくか、という課題があげられています。社員ひとりひとりが自ら考え自ら行動できるように、また、従業員がより働きやすい環境になるように考えています。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

社会的意義のある仕事をしているという自覚があるのが大きいと思います。そこから採算の確保によって報酬が得られ、より豊かな安定的生活が送れることが仕事を続けられるモチベーションになると考えています。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

建設業は請負という契約形態がほとんどであるため、人材が一番大事だと思っています。人材なくしての会社の発展はありませんし、多様な生活を支える建設産業には、多様な人材が必要であり、そこではあらゆる学問が生かせる時代だと思っています。

『全従業員の物心両面の幸福』を求められるよう、充実した人生を送れるように、ひとりひとりの幸せのためにできることを考えなければいけないと思っています。

※ご協力まことにありがとうございました。

“人々の命を救うことに関わっているという気持ちが支え”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 14年

・建設業に関わったきっかけ：

技術職の人間として生きていきたいと考えたときに、建設業は人々の生活に直結するインフラを支えることができる仕事だったから。

・職種（できるだけ具体的に）：

地盤調査、計測業務

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

自分自身が行っている業務はコンサル業務であり、工事を主体としている方々に比べれば、「このビルは自分が作ったんだ」「このダムを作ったのはわが社だ」という象徴的なものはないが、自分が行っている業務も人々の命を救うことに関わっているという気持ちが支えになっていると思う。

研究会のメンバーで提案した計測方法が形となり、賞を受賞することができた時にとってもやりがいを感じた。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

業務の効率化と業務を行いながら取得する資格の勉強方法そして若手の指導。

どうすれば、若手が情熱をなくさずに仕事に邁進できるかは大変難しい課題である。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

続けてこられたのは、根本的には自分が、仕事が好きだからだと思う。そして、長く続けていく為に最も必要なことは、良好な人間関係だと思う。良好な人間関係を築けていなければ、どんなことも続かないと思う。上司との良好な関係は大変重要なことである。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

ベテランが考える叩き上げの仕事の仕方を押し付けるのではなく、GIS や CAD 作業が得意な若者には情報化作業に従事させ、現場作業が好きな若者には現場作業を行わせるなど、建設業の中でも若者が従事したい仕事を行わせるべき。

※ご協力まことにありがとうございました。

“若者に背中を見て育て、では無理。根気強く仲間意識を育てる！”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 7年

・建設業に関わったきっかけ：

特に建設業にこだわったわけではなく、自宅からの通勤距離や休日を考慮した結果、たまたま建設業で働く事になりました。偶然のきっかけです。

・職種（できるだけ具体的に）：

従業員数 30 名程度の会社ですので、朝の掃除から始まり、電話応対や来客応対、経理事務、工事書類作成など会社業務全般（現場作業除く）の多岐にわたり携わっています。

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

工事書類を作成しているだけです。工事現場に行ったり、直接的に工事に関わったわけではありませんが、良い施工点数がでるとうれしいです。

➤ 質問② 現在、一番苦勞や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

いろいろな業界で働きましたが、建設業界はいまだに特に男尊女卑を感じる事が多いし、仕事の仕方に工夫がみられず、要領の悪い事がとても多いです。そんな中、根気強く何度も話し合いをして、少しでも改善がみられるように努力していますが、なかなか歩みが遅いです。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

女性が働くには決して恵まれた職場ではないとも思いますが、会社の仲間だと思います。長く働き続けるには、職場環境の改善や待遇改善が必要だと思います。

➤ 質問④ あと 5 年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

どの業界も同じですが、会社規模が小さくなればなるほど待遇が悪くなるし、人材も悪くなる気がします。企業は人で成り立っているので、建設業界に携わってくれた人々を大事にする事が大切だと思います。

今の若者は、昔ながらの大声で怒鳴ったり、背中を見て育て、では無理なので、根気強く教えて仲間意識もたせつつ、仕事の楽しみを教える事が大切だと思います。時間外労働を極力減らし、休日も十分にとらせる事も必要だと思います。

※ご協力まことにありがとうございました。

“技術者としての成長は、技術だけでなく人間力も大きく影響する”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 15年

・建設業に関わったきっかけ：

きっかけは、小学生の頃の現場見学会（山陽自動車道の橋梁建設現場）です。

・職種（できるだけ具体的に）：

既設土木構造物の調査・点検・診断

➤ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

建設業と関わった喜び：建設業で働いて16年目です。日々の仕事は地味なことが多いですが、やりがいを持って仕事に取り組んでいる今がとても楽しいです。

建設業のやりがい：建設業は、安全で安心して暮らせる国土・地域づくりに貢献できるという大きな魅力を持っていると考えています。同じ志を持つ仲間との出会いも、大きなやりがいに繋がっています。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

『女性技術者の増加』を、心から応援し賛同しています。しかし、国や業界をあげての取り組みを嬉しく思う反面、女性であることに甘えてはいけなさと感じています。増加する女性技術者が、自身の技術者としてのキャリアを確実に蓄積し、貢献していかなくてはいけない、大学や高専の女子学生とお話をする際には、こういった想いを伝えるよう心がけています。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

高専時代の指導教官、上司、先輩、お客様等々、尊敬できる様々な方からのご指導があったからこそだと感じています。日々、仕事を共にする、仲間の存在も大きいです。

一方で、私自身は、結婚・出産等のライフスタイルの変化が無かったことも大きな要因です。

技術者としての成長は、技術だけでなく人間力も大きく影響すると思います。

長く仕事を続けていくためには、男女問わず、身近な人間関係を構築することが大切だと思います。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

前述のとおり、長く仕事を続けていくためには、男女問わず、身近な人間関係を構築することが大切だと思います。

また、業界全体の魅力をアピールし、業界自体が社会からさらに『魅力的な業界だ』と認知されることにより、土木を学ぶ学生が増え、入職者の増加に繋がっていくと思います。

※ご協力まことにありがとうございました。

“子育て中。好き放題仕事がしたいと思うこともしばしば…”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 10年

・建設業に関わったきっかけ：

大学で農業土木を学び、学んだことを生かせる業種として建設コンサルタントを選択した。

・職種（できるだけ具体的に）：

建設コンサルタント（建設環境、環境影響評価）

➤ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

コンサルはサービス業なので、一番やりがいを感じるのはお客さんが求めている提案を履行できたときです。また、自分の関わった事業が日の目を見るとき（道路供用等）、住民説明会で事業への賛同の声を聞いたとき等にも、喜びを感じます。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

子育て中。家族や職場の同僚に迷惑をかけたくないと思いつつも、負担をかけなければ仕事が続けられない。効率を考えるようにはなったが、好き放題仕事がしたいと思うこともしばしば・・・。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

「仕事が好きだから」の一言に尽きます。達成感を感じるためというのもあるし、日々の膨大な仕事量を少しずつこなしていくのも好き。

ただ、やはり子育て等時間の制約がある場合は、周囲への負担がどうしても生じてしまいます。サポート体制というよりは、誰もが気兼ねなく、自分の生き方を選択したとしても周る社会が必要。具体的には、とりあえず過重労働の削減と、残業前提の職場の雰囲気改善でしょうか。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

見かけだけの「かっこいい」「楽しそう」という魅力発信だけでは、興味本位だけで終わってしまうように思います。「本当の仕事の面白さ」「そこで生活できる具体的なイメージ」が持てるようにならないといけないと思います。制度の充実も大切ですが、活力のある職場、良好な人間関係、そこで生み出される仕事、さまざまな観点から魅力が発信できるといいなと思います。

※ご協力まことにありがとうございました。

“学生たちが土木構造物に魅力を感じてくれた時にやりがい”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 15年

・建設業に関わったきっかけ：

身の回りにあるコンクリートの多さに驚いたから

・職種（できるだけ具体的に）：

高専職員

➤ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

土木構造物は、全てがオーダーメイドであり、それぞれの地域・環境・文化・風土に併せて、様々な事が考えられ造られていることに気付いたこと。また、それに対して学生たちが魅力を感じてくれていること。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務状、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

土木工学という学問分野がどれだけ日本の発展繁栄を支えているかという事を伝えること。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

先輩方が築き上げてきて下さったものに気付けたこと。出来るだけ大きな、簡単には達成できない目標を設定することと、できないことはできるようになるためにあると信じ、色々な人の支えに感謝すること。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

金銭や損得ではない、ロマンを感じ、縁の下で支える力・技術の重要性を感じる。また、感じられるように、先人として生き生きと仕事をする。

※ご協力まことにありがとうございました。

“家に専業主婦がいる男性陣と同じように働けと言われても無理”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 2年半

・建設業に関わったきっかけ：

前職（介護現場・介護事務）の経験から、介護負担の軽減には住宅改修が効果的なことが多いが、いざ工事をする事になって素人のぼんやりした想像とプロの常識・思い込みがうまくかみ合わずお互いにやや不満の残る仕上がりになってしまうことがある。そんな家族や本人と工事関係者との間を取り持つようなことが出来ればと思い自分の年齢もあまり考えず求職活動と同時に建築の勉強も始めてみた。

・職種（できるだけ具体的に）：

現場監督修行中。主に小規模の修繕などを担当。

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

綺麗になったり、カタチになって残るので成果が分かり易い。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

いわゆるワークライフバランスというやつが最近ではワークばかりになってしまっている。ベテラン男性の多くは家に妻という専業主婦がおり、帰宅すればごはんが出来てお風呂にもすぐ入れて、洗濯された着替えが用意されているのが当たり前で後は寝るだけらしいが、そんな男性陣と同じように働けと言われても無理がある。仕事が重なり残業しても終わらない時は、ものすごく中途半端でも思い切って帰宅したり、他の人に半分お願いしたりして自分の心身が壊れないように調整している。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

目の前の現場をこなしているうちに年月が経過したという感じがする。分からないことは素直に聞き、困っていることや不満、改善して欲しいことは訴えていかないと伝わらないし、周りの人の協力も得られないように思う。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

若者に限らずそれぞれに得手不得手があるので職場体験やマッチングサービスがあれば良いかと思う。建設業の中でも様々な職種があるので、大きい会社であれば入社後に各部署をひと通り体験させてから配属を決めて、小規模な会社であれば近隣の組合内で別会社への紹介等もやっていければ業界全体としての押し上げにもなるかも知れない。

※ご協力まことにありがとうございました。

“中学生の時に豪雨災害を経験したのが現場監督になるきっかけ”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 2年6か月

・建設業に関わったきっかけ：

中学生の時に豪雨災害を経験し、なぜこういうことが起こるか、防ぐにはどうすべきなのかと疑問に思ったこと。

・職種（できるだけ具体的に）：

現場監督

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

工事が完了し、地域住民の方から感謝の言葉を頂いたとき。

仕事を小さなことでも段々と「任せられる」ことが増え、それをやり遂げたとき。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

覚えることが多く、なかなか仕事がおぼえられないこと。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

女性は、結婚や妊娠・出産や、そうでなくても一定の年齢になれば周りがそれを意識してくる。また、体力や身体、力の面でも男性より劣ってくる。それをサポートしてくれる周りの助けや制度が必要だと思う。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

充実した制度や、休みの取りやすい環境。

※ご協力まことにありがとうございました。